

2018年度

事業報告書

2018(平成30)年4月1日



2019(平成31)年3月31日

2018年度事業報告について

第一部 西南女学院の概要

1. 法人の概要	...	3
2. 設置する学校の概要及び教育目的	...	3
3. 主要行事	...	5
4. 宗教教育活動	...	6
5. 学生・生徒・園児	...	10
(1) 志願者数 (2) 在籍者数 (3) 卒業生数		
6. 教職員組織	...	12
(1) 教職員数 (2) 組織図		
7. 役員・評議員	...	17
8. 理事会議案及び決議	...	18

第二部 事業の概要・財務の概要

1. 事業及び決算の概要	...	21
2. 財務の概要(2018年度予算の主な執行状況)	...	23
(1) 資金収支計算 (2) 事業活動収支 (3) 貸借対照表		
(4) 学生数・財務比率などの推移		

学校法人西南女学院

2018年度事業報告について

2019年5月

学校法人西南女学院

理事長 向 雅彦

西南女学院は、1899年から20年間にわたり熊本で宣教活動を行った米国南部バプテスト海外伝道局宣教師L. D. クラーク師の祈り「日本婦人に教育と伝道を」を継承し1922年4月、J. H. ロウ宣教師によって「キリスト教に基づく女子教育を行うこと。」を目的として創立されました。以来、今日まで皆様のご支援を賜り2019年4月18日には、創立97年目を迎えることができました。ひとえに西南女学院を信頼し、学生、生徒、園児を西南女学院におくってくださいます保護者の皆様と地域の皆様の深いご理解の賜と感謝いたしております。

現在、100年の節目に向けて創立100周年記念事業実行委員会の下に行事、記念誌、事業等の各種委員会を設置し、お支えいただいております皆様とともに2022年に記念の年を迎える準備を進めているところでございます。

さて、大学及び大学短期大学部では、公式ウェブサイトに掲載しておりますとおり「将来計画2016～2018」の最終年度を終えました。2つの柱「地域に根ざし地域とともに歩む大学・短期大学づくり」「教育の質が高く、学生の支援体制が充実した大学・短期大学づくり」が順調に発展してまいりました。2019年度は総括を行うとともに、その成果を見ながら次の将来計画を策定いたします。また、附属シオン山幼稚園では、園生活の安全・安心に資するため、園舎の耐震補強工事も完了いたしましたことをご報告申し上げます。

中学校・高等学校では、「国際基準の学力育成」「手厚い進路保障」を旨として、授業内容や方法の改革・改善により教科指導力の強化を図りながら教育及び運営に努めております。また、地域の皆様との交わりとして、中学生・小学生向けバスケットボールクリニックでも皆様から大きな反響をいただいております。入試制度にも連結することができております。

2018年度の事業及び決算につきましては、教育研究における重点分野及び学生生徒の人員等について事業計画を立て実施してまいりました。本報告書の「第二部 事業の概要・財務の概要」において詳細をご報告申し上げますのでご高覧ください。

西南女学院といたしましては、今日の就学事情や社会の構造的な変化に伴い、経営の安定化について、意識を強く持ち学校経営を行うことがますます必要になったと考えておりますが、学生、生徒、園児並びに保護者の皆様からのご満足を頂けることを第一義とした教育に専心してまいります。

これからも主のご恩寵に感謝し、西南女学院でなければならない特色ある女子教育の実践として、教育の質の向上、環境の整備、一人ひとりを大切にする教育を旨として、来る2022年の創立100周年を迎える所存でございます。関係の皆様には、今後ともご後援賜りますようお願い申しあげ、2018年度の事業報告とさせていただきます。

第一部

西南女学院の概要

1. 法人の概要

(1) 建学の精神

「感恩奉仕」

神さまをはっきりと心に宿せば宿すほど、私たちの心に“有難い”という感じが湧いてきます。家族がどれほど有難いものか、この世界に生まれたことがどれほど有難いものかがよく解ってきます。“有難い”との感が起こると、進んで親のために兄弟のために又は社会のために小さい事でも出来る限り働いて差し上げようとの感じが起こってきます。この“有難い”という気持ちを西南女学院では『感恩』といい、他者のために働く事を『奉仕』といいます。

この理念は、学生・生徒・園児の教育理念であると同時に、西南女学院の教育活動に参画している全ての職員の職務理念であります。

西南女学院は、キリスト教に基づく使命感、優れた教養と知識と技能をあわせもつ女性を育成するために、各学校の一層の充実を図りながら総合的な学園として発展し続けています。

(2) 沿革

1922(大正11)年	西南女学院設立(5年制高等女学校)
1938(昭和13)年	財団法人西南女学院設立
1946(昭和21)年	西南女学院専門学校設置(英語科・生活科)
1947(昭和22)年	学制改革により西南女学院中学校設置
1948(昭和23)年	学制改革により西南女学院高等学校設置
1950(昭和25)年	西南女学院短期大学設置(英語科・家政科)
1951(昭和26)年	学校法人西南女学院設立
1952(昭和27)年	西南女学院幼稚園設置
1958(昭和33)年	西南女学院短期大学保育科設置
1971(昭和46)年	西南女学院短期大学食物栄養科設置
1994(平成6)年	西南女学院大学保健福祉学部設置
2002(平成14)年	西南女学院大学保健福祉学部栄養学科設置(短期大学食物栄養学科を改組)
2002(平成14)年	西南女学院大学人文学部人文学科設置(短期大学英語科を改組)
2002(平成14)年	西南女学院短期大学家政科を生活創造学科に名称変更
2003(平成15)年	西南女学院短期大学英語科、食物栄養科廃止
2004(平成16)年	西南女学院短期大学を西南女学院大学短期大学部に名称変更
2004(平成16)年	西南女学院短期大学附属シオン山幼稚園を西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園に名称変更
2006(平成18)年	西南女学院大学人文学部英語学科及び観光文化学科設置(人文学部人文学科を改組)
2008(平成20)年	西南女学院大学助産別科開設
2018(平成30)年	西南女学院大学短期大学部生活創造学科廃止

2. 設置する学校の概要及び教育目的

※括弧内の数字は2018年度収容定員

(1) 西南女学院大学

西南女学院大学は、教育基本法及び学校教育法に則り、キリスト教を教育の基盤として、広く知識を授け、深く専門の学芸を教授研究するとともに、豊かな人間性を涵養し、もって人類の福祉と文化の発展とに貢献する有為の人物を育成することを目的としています。

□ 保健福祉学部

保健福祉学部は、豊かな教養と倫理観を培い、看護、福祉、栄養の知識と技術を教授し、専門職者としての実践力と協働力を育むとともに、平和を愛する国際的視野をもって人々の幸福に貢献できる人材を育成することを目的としています。

■ 看護学科(360)

看護学科は、保健と看護の知識、技術を修得させ、人々の健康ニーズに応え、保健医療福祉の向上に寄与する人材を育成することを目的としています。

- 福祉学科(320)

福祉学科は、ヒューマンサービスの専門家として必要な知識、技術を修得させ、想像力と創造力のある福祉、教育及び保育の分野で貢献できる人材を育成することを目的としています。

- 栄養学科(400)

栄養学科は、「人」と「食」の両面より栄養を総合的に理解し、人々の健康に貢献できる管理栄養士及び栄養士を養成することを目的としています。

- 人文学部

人文学部は、豊かな人間性を養い、礼節を身につけ、専門的能力をもってグローバル化、情報化が進む国際社会及び地域社会において主体的に活動し、貢献できる人材を育成することを目的としています。

- 英語学科(240)

英語学科は、英語によるグローバル・コミュニケーション能力をもち、国際的視野と地域的視野に立って思考し、自主的に行動できる有能な人材を育成することを目的としています。

- 観光文化学科(240)

観光文化学科は、ホスピタリティのこころを育み、ツーリズム及びビジネス全般に有用な基礎的教養と専門的能力を備えた人材を育成することを目的としています。

- 助産別科(16)

助産別科は、助産の対象である女性、乳幼児及びその家族を全人的に理解するとともに、助産の知識と実践力を有し、専門職として自立した助産師を育成することを目的としています。

(2) 西南女学院大学短期大学部

西南女学院大学短期大学部は、キリスト教を教育の基本として女子に高い教養を授けるとともに生活に必要な専門の教育を施し、よき社会人を育成することを目的としています。

- 保育科(300)

保育科は、豊かな感性を有し、専門的知識と技術を備えた保育者を養成することを目的としています。

(3) 西南女学院高等学校 全日制課程 普通科(480)

西南女学院高等学校は、キリスト教に基づき女子の人格完成を旨とし、教育基本法、学校教育法及びその他の教育に関する法令により高等普通教育を行うことを目的としています。また、入学者のうち西南女学院中学校を卒業した者に対して、その中学校における教育とあわせた中高一貫教育（併設型高等学校）を行います。

(4) 西南女学院中学校(240)

西南女学院中学校は、キリスト教に基づき心身の発達に応じて、女子の人格を養成することを旨とし、教育諸法令に則り、西南女学院高等学校における教育を合わせた、中高一貫教育（併設型中学校）を行うことを目的としています。

(5) 西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園(180)

西南女学院大学短期大学部附属シオン山幼稚園は、教育基本法、学校教育法並びに幼稚園教育要領に基づき学齢未満の幼児を、キリスト教精神をもって保育し、適当な環境を与えてその心身の発達を助長することを目的としています。あわせて、西南女学院大学短期大学部の附属施設として、幼児教育に関する研究並びに保育科学生の実習機関としての役割を果たしています。

3. 主要行事 2018(平成30)4.1～2019(平成31)3.31

- | | |
|--|--|
| <p>4. 2 辞令交付
 新任職員オリエンテーション
 3 新任職員オリエンテーション聖書学課
 4 大学・大学短期大学部入学式
 6 中学・高校始業式
 幼稚園始園式
 7 中学入学式
 高校入学・進級式
 9 大学短期大学部前期授業開始
 10 大学前期授業開始
 12 幼稚園入園式
 18 創立記念日
 5. 9 大学短期大学部ミッションデー
 10 大学ミッションデー
 16 大学短期大学部ミッションデー
 17 大学ミッションデー
 18 墓前祈祷会
 23 常任理事会、理事会、評議員会
 24 第1回学院聖書学課
 25 後援会会計監査・役員会・幹事会
 6. 7 中学・高校ミッションマンス(6/7、14、21)
 15 後援会役員会・総会・新旧役員幹事懇親会
 21 第2回学院聖書学課
 7. 7 高校オープンスクール
 15 大学・大学短期大学部オープンキャンパス
 19 キリスト教教育特別講演会
 幼稚園終園式
 20 中学・高校終業式
 27 後援会役員会・幹事会
 28 中学オープンスクール
 31 大学短期大学部前期試験(8月2日迄)
 8. 1 大学前期試験(8月10日迄)
 職員研修懇談会(幼稚園)
 大学短期大学部夏期休業(9月9日迄)
 11 大学夏期休業(9月2日迄)
 18 大学・大学短期大学部オープンキャンパス
 19 大学・大学短期大学部オープンキャンパス
 21 職員研修懇談会(中学・高校)
 22 中学・高校始業式
 職員研修懇談会(事務・労務)
 23 職員研修懇談会(大学、大学短期大学部)
 9. 3 幼稚園始園式
 15 中学・高校体育祭
 21 常任理事会、評議員会、理事会
 22 中学・高校オープンスクール
 25 大学・大学短期大学部後期授業開始
 10. 8 幼稚園運動会
 AO入試、助産別科推薦入試、
 大学短期大学部特待生入試
 12 AO入試、助産別科推薦入試、
 大学短期大学部特待生入試合格発表
 18 第3回学院聖書学課
 20 大学祭(21日迄)
 22 中学・高校ミッションウィーク(26日迄)</p> | <p>11. 7 大学短期大学部ミッションデー
 8 大学ミッションデー
 10 中学・高校オープンスクール
 14 大学短期大学部ミッションデー
 15 大学ミッションデー
 16 大学一般公募・卒業生子女・キリスト教信者推薦入試
 大学社会人・外国人留学生・転編入学入試
 17 西南音楽会
 大学指定校・併設校推薦入試
 大学短期大学部推薦・自己PR・社会人・
 外国人留学生入試
 27 大学推薦入試・社会人・転編入試合格発表
 大学短期大学部推薦・自己PR・社会人・
 外国人留学生入試合格発表
 12. 6 第4回学院聖書学課
 8 助産別科一般入試
 幼稚園クリスマス礼拝
 12 常任理事会、理事会
 13 大学・大学短期大学部クリスマス礼拝
 中学・高校クリスマス礼拝
 14 助産別科一般入試合格発表
 21 中学・高校終業式
 幼稚園終園式
 22 大学・大学短期大学部冬期休業(1月6日迄)
 1. 4 中学校前期入学試験
 7 大学・大学短期大学部後期授業再開
 8 中学・高校始業式
 幼稚園始園式
 21 高校推薦入学試験
 30 高校一般入学試験
 大学後期定期試験(2月9日迄)
 大学短期大学部後期定期試験(2月2日迄)
 31 大学・大学短期大学部一般前期入試
 2. 11 中学校後期入学試験
 15 後援会役員会
 大学・大学短期大学部一般前期入試合格発表
 幼稚園生活発表会
 21 第5回学院聖書学課
 3. 1 高校卒業式
 2 大学・大学短期大学部一般後期入試
 8 大学・大学短期大学部一般後期入試合格発表
 9 幼稚園卒園式
 13 常任理事会
 20 大学・大学短期大学部卒業証書・学位記授与式
 中学・高校終業式
 22 理事会・評議員会
 幼稚園終園式</p> |
|--|--|

4. 宗教教育活動 （ 2018年度宗教委員会報告より抜粋 ） 現状と展望

（1）全体的総括

2018年度は、コリントの信徒への手紙一 3章6節「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」が年間聖句に選ばれ、年間主題は「主にある発展」であった。

2018年度は女学院創立96周年を迎え、日々祈る1年であった。大学ではチャペル礼拝のマロリーホールから大講義室への映像・音声継放送実施が6年目を迎える中、大学の2年生以上の学生の出席は厳しい状況にある。

「西南女学院キリスト教教育特別講演会」では、金澤正剛氏（国際基督教大学名誉教授）より、「宗教改革と音楽」というテーマで講演いただいた。2011年度以降を振り返ると、幸い各分野の専門的研究での第一人者の方々によりその専門的視点からキリスト教を語っていただいている。2017年度までの講師を挙げると、日本文学研究の佐藤泰正氏、新約聖書神学研究の荒井献氏、バイオエシックス研究の木村利人氏、セーレン・キェルケゴール研究の橋本淳氏、ヴォーリズ建築研究の田淵結氏、宗教学の八木誠一氏の方々である。

「キリスト教教育研究会」は、若者への伝道をテーマに掲げ12年目の年となった。初めの6年間は、「若者への伝道」をテーマに開催し、7年目の教育研究会総会での提案により、女学院のミッションデー講師を研究会の講師として招聘するようになった。本年度第1回目は、春季ミッションデーの講師高木康俊氏（蓮根バプテスト教会主任牧師）により「自立した青年キリスト者の育成」と題して発題がなされた。第2回目は、秋季ミッションデーの講師田坂さつき氏（立正大学文学部哲学科教授）により「放蕩息子の帰還—ゲノム編集の倫理問題をめぐって」と題する発題がなされた。

東日本等の災害被災者支援として、大学・大学短期大学部では、クリスマス礼拝において、地域連携室の協力を得て有志によるバザーが行われた。

（2）活動の概括

1. 教職員対象のプログラムとしては、例年通り、創立記念式、墓前祈祷会、教職員研修会、キリスト教教育特別講演会、クリスマスツリー点灯式、それに、新任職員オリエンテーション聖書学課、聖書学課、教職員の朝の礼拝（毎日）、教職員祈祷会（中高月1回）を行った。新任職員オリエンテーション聖書学課は、例年同様、終日プログラムで開催。学院聖書学課（年5回）は、4回は近隣教会牧師、第5回は松見俊氏（元西南学院大学神学部神学科教授）による奨励がなされた。

教職員向けの学内報である広報課発行の「月報」の「今月の聖句」欄を、学院宗教主任、大学短期大学部宗教主事補が担当した。

2. チャペル礼拝は、本学の根幹であり、礼拝の充実を全学の共通のテーマとして取り組んでいる。中学校・高等学校においては、全体礼拝を、2011年度より、中高一貫教育に照らし、平常のチャペル礼拝もミッションマンス・ミッションウィークも、すべて中学校・高等学校合同で行なっている。ミッションマンスには講師として谷本仰氏（南小倉バプテスト教会牧師）、ロッキー&マール綾塚夫妻（アロマ・ミニストリーズ）、後藤献一氏（日本ナザレン教団八幡キリスト教会牧師）、ミッションウィークには、田中綜二氏（西南女学院院長）を迎えた。

大学・大学短期大学部においては、春季ミッションデー第1週は、酒井信氏（Lifetree Christ Church 牧師）を迎え、大学短期大学部では「あなたは大切な存在」、大学では「あなたの将来は明るい？」と題して行われた。第2週は、高木康俊氏（蓮根バプテスト教会主任牧師）を迎え、大学短期大学部では「生き生きとした希望」、大学では「見なくても信じる愛」と題して行われた。秋季ミッションデーの第1週は、木原活信氏（同志社大学社会学部社会福祉学科教授、日本キリスト教社会福祉学会会長）を迎え、「神様からの承認 いいね!」と題して行われた。第2週は、田坂さつき氏（立正大学 文学部哲学科教授）を迎え、「放蕩息子の帰還」と題して行われた。また、大学・大学短期大学部合同クリスマス礼拝では、14年続いてアルモニーサンク「北九州ソレイユホール」を会場に、講師としてお迎えしたバーナード・バートン氏（玉川聖学院理事長）によって、「ベストプレゼント」（“Best Present”）と題したメッセージを通して、クリスマスについて語られた。プログラムの前半では、学生による平和のスピーチが英語（英語学科3年）と中国語（観光文化学科4年）で行われ、イエス・キリストの生誕物語を、光による演出により聖書朗読と讃美を交互に行うコーラルリーディング方式で行ったあと、会場全体で、日本語と英語により「さやかに星はきらめき (O Holy Night)」を讃美し、メッセージ後、会場全体で、「きよしこの夜」①③番を日本語で再度①番を英語で讃美した。後半は音楽中心のプログラムで、聖歌隊、ハンドベルクワイヤー、ソプラノソロ、オルガンソロなどに続き、最後は全員でハレルヤコーラスを歌いイエス・キリストの降誕を祝った。昨年に引き続き地域連携の一環として、クリスマス礼拝を一般公開し、また初めてのこころみとして、会場ロビーで卒業生からのメッセージの展示や、3つの有志のゼミによる募金のためのバザーを開催した。大学・大学短期大学部

のチャペル礼拝のサテライト会場は、出席者が必ずしも多くはないが、礼拝における一体感をより持てる工夫として2会場とした昨年度を継承した。チャペルにおいても、昨年同様シニアサマーカレッジ参加者を招いた。

クリスマス献金については、幼稚園・中学校・高等学校・大学短期大学部・大学、及び大学・大学短期大学部ハンドベルクワイヤーで、例年同様に取組み、募金は、日本バプテスト連盟、「ふれあいの里とばた」、「声なき者の友の輪」等に加え、今年度も熊本地震で多大な損害を受けた九州学院に行った。

3. 近隣諸教会との協力関係により、生徒・学生の教会訪問プログラムが行われた。「教会案内」発行も例年通り行った。同様に、前述した「キリスト教教育特別講演会」、「キリスト教教育研究会」及び、「現代神学を学ぶ会」を行った。「牧師交流会」は、牧師交流会「世話人会」による企画により14年目を迎えた。

8月の「牧師交流会」では、久多良木和夫氏（日本キリスト教団北九州復興教会牧師）の奨励による開会礼拝に続いて、相互の良き交流がなされると共に、宣教へ向けての情報交換が行われた。これらは「キリスト教教育研究会ニュースレター第12号」で報告した。3月の本研究会総会には牧師・教員等が7名出席し、年度の振り返りと次年度の方針決定を行った。

4. 地域へ開かれた活動としては、大学・大学短期大学部ハンドベルクワイヤーと高等学校のハンドベル部が教会、病院、公共施設、福祉施設等で、多くの地域奉仕を行った。その他、前述のキリスト教の諸活動の案内を行った。

5. 教職員の主体的な活動として、基本的に、中学校・高等学校では、定例として月の第一火曜日に「祈祷会」が持たれ、村瀬泉校長主催による「聖書の学び会」が月に一度、放課後、継続して開かれた。大学・大学短期大学部では、定例として月初めに「朝の祈祷会」が持たれた。

（3）2018年度の全体的評価と展望

1. 2018年度、年間主題は「主にある発展」、年間聖句はコリントの信徒への手紙一3章6節「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」であった。女学院創立96周年を迎え、私たちと共におられ過去・現在・未来を統べ治めたもう主なる神に日々の祈ることを実践する一年であった。次年度は、2022年に迎える創立百周年を念頭に置き、年間主題を「神の計画」とし、年間聖句をエレミヤ書29章11節「わたしは、あなたたちのために立てた計画をよく心に留めている、と主は言われる。それは平和の計画であって、災いの計画ではない。将来と希望を与えるものである。」として掲げる。

2. キリスト教教育の効果としては、中学校・高等学校では、例年と同様に、全体礼拝への全教職員出席が実現しており、自主的教会出席の生徒も皆勤者が多く、サマーキャンプにも多数の参加者が与えられている。大学・大学短期大学部では、6年目を迎えたチャペル礼拝中継放送によるサテライト会場での教職員の出席者は下降した後、横ばいである。聖書学課は、2015年度から基本的に牧師による奨励により、全職員にキリスト教の根幹を多角的に理解できる機会を提供し、「キリスト教教育の理解力が高い教職員」の成長に繋がる良い機会となっている。次年度もこの路線を継承する。

3. 2002年から関わっている「広島女学院大学の『平和学習』」に、2018年度は、開催日程が講義や試験日程と重なっていたために、不参加となった。「キリスト教センター便り」は、昨年同様、年5回、季刊発行した。「学内の情報のコミュニティー」という当初の発刊目的に加え、「学外への広報誌」としてしての面を強く打ち出し、「西南ニュース」、「ここが知りたいキリスト教」、「教会に歓迎します」等の頁の充実を図り、キリスト教関連の記事の充実を図っている。次年度も、さらなる高みをめざす工夫をする。

4. 地域諸教会との協力関係を見ると、2018年度は、「キリスト教研究会」・「キリスト教教育特別講演会」・「現代神学を学ぶ会」・「牧師交流会」などにより、継続的な交流がなされ、相互理解の広がりや深まりも増し、学院と諸教会、また諸教会間の関係、若者伝道の課題とそれに向けてのより密接な協力関係が形成されてきている。今後も、これらの諸活動を通して、一層、主にある地域の諸教会との絆が深くかつ強くなることが期待される。次年度も、この期待に応える活動を実施する。

2018年度 学院年間主題・聖句

年間主題 「主にある発展」

年間聖句 「わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。」
(コリントの信徒への手紙一 3章6節)

月主題・聖句 (新共同訳)

月	主 題	聖 句
4月	学院の教育の原点	ヨハネによる福音書 3章16節
5月	学院の教育の継承	テモテへの手紙二 1章3節
6月	学院の女子教育	エフェソの信徒への手紙 5章8節
7月	地域に仕える学院	ヨハネによる福音書 15章4節
8月	平和	ルカによる福音書 6章27節
9月	基本的人権	創世記 5章1b-2節
10月	環境と生活	創世記 6章19節
11月	世界にある格差を覚えて	マタイによる福音書 20章26b-27節
12月	キリストの誕生	マタイによる福音書 2章2b節
1月	キリストにある希望	マルコによる福音書 4章26-27節
2月	魂の深まり	マタイによる福音書 11章28節
3月	世界に向かってはばたく	マタイによる福音書 28章20節

学院聖書学課

全職員を対象とした唯一のプログラムである学院聖書学課が年5回行われている。
実施は次のとおりである。 (16:20～16:50 於:マロリーホール)

月日	奨励者	主題・聖書	司会	奏楽
5/24 (木)	日本キリスト教団 小倉東篠崎・日明教会牧師 福島 義人	「子どものような気持ちで」 マルコによる福音書 10章13～16節	学院宗教主任 古川 敬康	福祉学科講師 文屋 典子
6/21 (木)	日本福音ルーテル 門司・八幡教会牧師 岩切 雄太	「イエスはえらい」 ローマの信徒への手紙 7章24～25節	大学短期大学部 宗教主事補 東 彩子	中学校・高等学校 教諭 爲頼 康子
10/18 (木)	日本キリスト教団 八幡鉄町教会牧師 松原 望	「福音を宣べ伝える」 コリントの信徒への手紙一 15章1節-5節	中学校・高等学校 宗教部長 松下 範枝	中学校・高等学校 教諭 爲頼 康子
12/ 6 (木)	日本キリスト教団 門司大里・門司白金教会牧師 中村 和光	「マリアの賛歌」 ルカによる福音書 1章46-55節	大学短期大学部 宗教主事補 東 彩子	中学校・高等学校 教諭 佐野 智江
2/21 (木)	元西南学院大学 神学部神学科教授 松見 俊	「いのちを分かち合う主イエス」 マルコによる福音書 5章21-34節	学院宗教主任 古川 敬康	保育科講師 金谷 めぐみ

□ 各校の主な宗教教育

○ 大学・大学短期大学部 A. チャペル（学校礼拝） B. 特別行事 （1）春季ミッションデー 大学短期大学部：（水）5月9日・16日 大学：（木）5月10日・17日 （2）秋季ミッションデー 大学短期大学部：（水）11月7日・14日 大学：（木）11月8日・15日 （3）クリスマス礼拝 12月13日（木）13:00～15:00 アルモニーサンク北九州ソレイユホール （4）送別礼拝 大学短期大学部：1月16日（水） 大学：1月24日（木） C. 講義 キリスト教学、キリスト教と文学、宗教と人間、 キリスト教と西南女学院のあゆみ D. その他の宗教活動 1. ハンドベルクワイヤー 2. 朝の集い（早朝祈祷会 基本的に月初め） ○ 幼稚園 2018年 5月11日（金） ファミリー礼拝① 6月 8日（金） 花の日礼拝 17日（日） ファミリー礼拝② 9月14日（金） 敬老礼拝 11月 7日（水） 収穫感謝礼拝 11日（日） シオン山教会子ども祝福式参加 12月 8日（土） クリスマス礼拝 13日（木） クリスマス祝会	○ 中学校・高等学校 1. 礼 拝 月、火、水、土曜日：クラス礼拝 木曜日：全体礼拝 金曜日：放送礼拝 土曜日：1年のみ学年礼拝 2. 諸集会活動（中高合同） 第1土曜日 小羊会（祈祷会） 7:50～8:15 第3土曜日 清掃活動 7:50～8:15 宗教委員会：金曜日 お昼休み 3. 年間の対外的活動 施設訪問 5月26日（土）「久山療育園」 12月21日（金）「伸寿苑」（小倉リハビリテー ション病院） 4. ミッションマンス（特別伝道月間） 中学校・高等学校合同（3回） 6月7, 14, 21日（木） 5. ミッションウィーク（特別伝道週間） 中学校・高等学校合同 10月18日（木）～20日（土） 6. サマーキャンプ 中学校・高等学校合同 7月23日（月）～25日（水） ソーラージュ日出 7. クリスマス礼拝 中学校・高等学校合同 12月13日（木） 8. 6年生のための特別礼拝 2019年2月22日（金）
---	---

5. 学生・生徒・園児

(1) 志願者数

2018(平成30)年5月1日現在

学 校 名			入学定員	入学志願者数		実入学者数	
				推薦	一般	推薦	一般
大 学	保健福祉学部	看護学科	90	80 (3)	247 (5)	54 (3)	56 (3)
		福祉学科	80	29 (0)	152 (4)	29 (0)	48 (0)
		栄養学科	100	36 (0)	183 (0)	36 (0)	44 (0)
		計	270	145 (3)	582 (9)	119 (3)	148 (3)
	人文学部	英語学科	60	19 (1)	98 (2)	19 (1)	41 (1)
		観光文化学科	60	35 (0)	81 (2)	35 (0)	30 (2)
		計	120	54 (1)	179 (4)	54 (1)	71 (3)
	助産別科		16	21 (0)	34 (0)	8 (0)	8 (0)
	小 計		406	220 (4)	795 (13)	181 (4)	227 (6)
	累 計			1,015 (17)		408 (10)	
短期大学部	保育科		150	72 (0)	35 (2)	64 (0)	13 (0)
	累 計			107 (2)		77 (0)	
高等学校	一般中学より		80	5	51	5	7
	西南女学院中学より		80	35		35	
	計		160	91		47	
中学校			80	138		50	
幼稚園			満3歳児 20	満3歳児	3	満3歳児	3
			3歳児 30	3歳児	16	3歳児	16
			4歳児 15	4歳児	6	4歳児	6
			5歳児 若干	5歳児	2	5歳児	2

【注】 ()内は西南女学院高校からの志願者数・入学者数を内数で示す。

大学推薦入試には、AO入試の志願者数・入学者数を含む。

大学一般入試には、社会人入試、センター試験利用入試及び外国人留学生入試の志願者数・入学者数を含む。

短期大学部推薦入試には、AO入試・自己PR入試の志願者数・入学者数を含む。

短期大学部一般入試には、特待生入試、社会人入試、センター試験利用入試の志願者数・入学者数を含む。

幼稚園満3歳児は6月以降に入園希望の2名を含む。

(2) 在籍者数

学 校・学科等		新 入 生	総 数	
			2018(平30). 5. 1 現在	2019(平31). 3. 31 現在
大 学	看 護 学 科	110	425 (1)	418 (6)
	福 祉 学 科	77	322	316 (1)
	栄 養 学 科	80	335 (1)	327 (2)
	英 語 学 科	60	182	180 (1)
	観光文化学科	65	244	240 (2)
	助 産 別 科	16	16	16
	計	408	1, 524 (2)	1, 497 (12)
学 部	保 育 科	77	173	171 (1)
	計	77	173	171 (1)
中・高 4 5 6 年		47	161	159
中・高 1 2 3 年		50	142	136
幼 稚 園		25	91	96 (1)
合 計		607	2, 091 (2)	2, 059 (14)

(注) 休学者は在籍数の隣に()を付して内数で示す。

(3) 卒業生数

2019(平成31)年5月1日現在

2018(平30)年度卒業生			累 計	旧制女学校卒業生		累 計
学 校 名		人 員				
幼 稚 園		29	3,684	女 学 校		2,147
中 学 校		55	12,298	専門学校 累計(203)	英語科	87
高 等 学 校		53	14,174		生活科	116
大学 短期 大学部	(英 語 科)	－	9,460			
	生活創造学科	－	10,509			
	保 育 科	93	8,217			
	(食物栄養科)	－	4,032			
	計	93	32,218			
大 学	看 護 学 科	88	1,935			
	福 祉 学 科	90	2,672			
	栄 養 学 科	87	1,379			
	英 語 学 科	33	449			
	観光文化学科	64	681			
	人 文 学 科	－	388			
	助 産 別 科	16	182			
	計	378	7,686			
合 計		608	70,060	合 計		2,350
総 数 (卒業生総数)			72,410			

(注) 中学校卒業生55名の中、内部高校進学者数53名

6. 教職員組織

教職員数（2019（平成31）年3月1日現在）

	教員数	職員数	計
本部	0	11	11
大学・大学短期大学部	117	41	162
中学校・高等学校	37	1	41
大学短期大学部附属 シオン山幼稚園	9	1	10
計	158	54	212

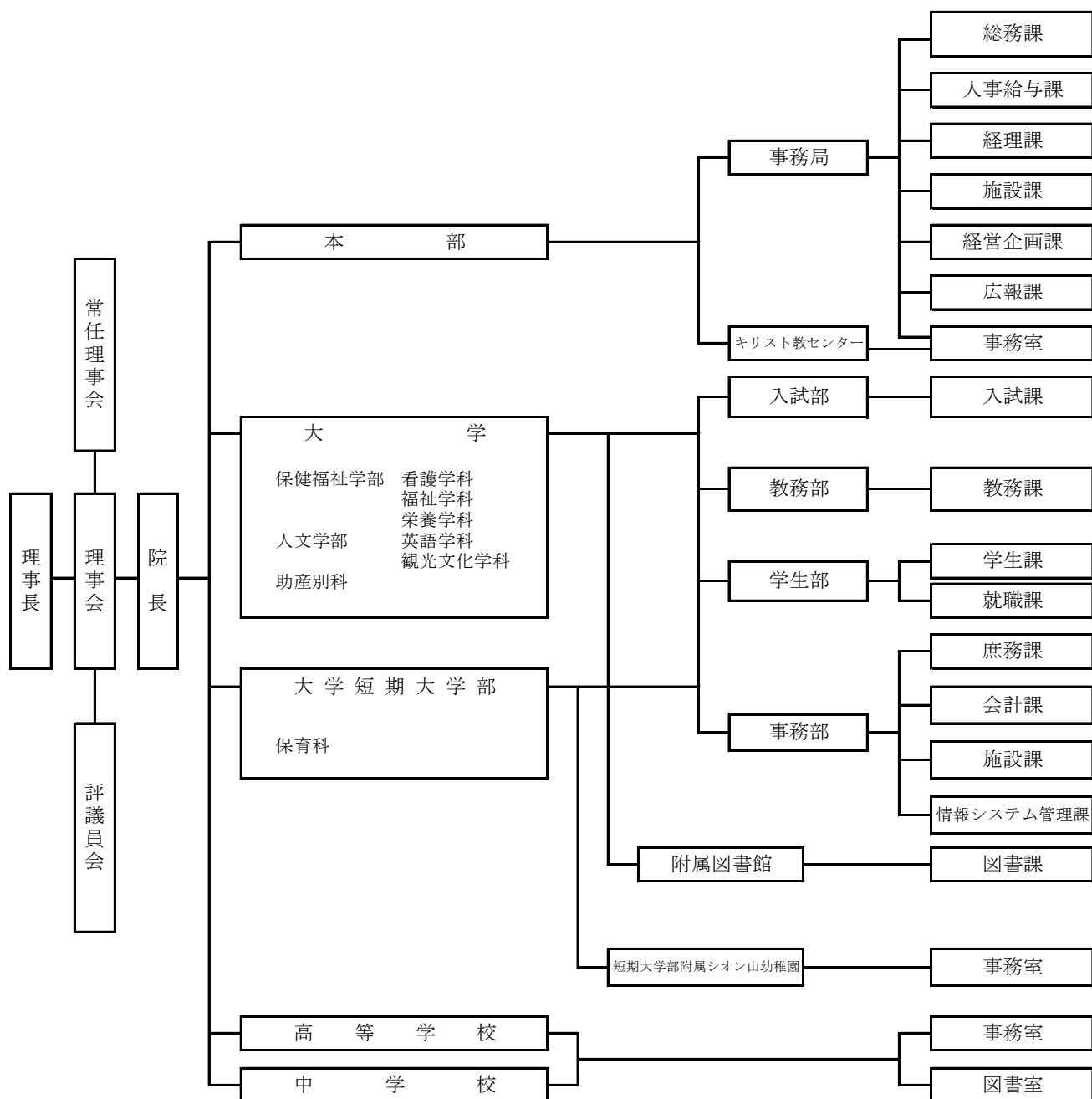
7. 役員・評議員数（2019（平成31）年3月1日現在）

理事（理事長 向 雅彦）

	定数	19名	現員	18名
監事	定数	2名	現員	2名
評議員	定数	41名	現員	38名

(2) 組織図

2019(平成31)年3月1日現在



8. 理事会議案及び決議

2018(平成30)年4月～2019(平成31)年3月

第1回 2018(平成30)年5月23日(水)

- | | | |
|---------------------------------|---|---|
| ・2017(平成29)年度事業報告及び決算等について | | |
| (1) 事業報告 | 承 | 認 |
| (2) 決算報告 | 承 | 認 |
| (3) 監事監査報告 | 承 | 認 |
| ・人事について | 承 | 認 |
| ・2019(平成31)年度大学及び大学短期大学部学納金について | 承 | 認 |
| ・西南女学院大学学則改正(案)について | 承 | 認 |

第2回 2018(平成30)年5月23日(水)

- | | | |
|-----------------------------|---|---|
| ・特定公益増進法人の証明申請について | 承 | 認 |
| ・学校法人に対する寄附の税額控除に係る証明申請について | 承 | 認 |
| ・学長候補者選考委員会への出席者について | 承 | 認 |

第3回 2018(平成30)年9月21日(金)

- | | | |
|--|---|---|
| ・人事について | 承 | 認 |
| ・2018(平成30)年度補正予算(案)について | 承 | 認 |
| ・2019(平成31)年度予算基本方針(案)について | 承 | 認 |
| ・西南女学院育児・介護休業等に関する規程改正(案)について
(労使協定を含む) | 承 | 認 |
| ・西南女学院給与規程改正(案)について | 承 | 認 |
| ・西南女学院大学短期大学部学則改正(案)について | 承 | 認 |

第4回 2018(平成30)年12月12日(水)

- | | | |
|----------------------------------|---|---|
| ・人事について | 承 | 認 |
| ・任期満了に伴う次期大学及び大学短期大学部学長候補者選考について | 承 | 認 |
| ・学院宗教主任の推薦について | 承 | 認 |
| ・2019(平成31)年度中学校・高等学校校納金について | 承 | 認 |
| ・高等学校学習指導要領改正に伴う学則変更(科目名変更)について | 承 | 認 |

第5回 2019(平成31)年3月22日(金)

- | | | |
|--------------------------|---|---|
| ・2019年度事業計画及び当初予算(案)について | 承 | 認 |
| ・人事について | 承 | 認 |
| ・西南女学院就業規則改正案について | 承 | 認 |
| ・西南女学院給与規程改正案について | 承 | 認 |
| ・大学特別奨学生規程の改正について | 承 | 認 |
| ・大学一般奨学生規程の改正について | 承 | 認 |
| ・大学学生表彰規程の制定について | 承 | 認 |
| ・中学校・高等学校副校長候補者推薦について | 承 | 認 |

第二部

事業の概要・財務の概要

1. 事業及び決算の概要

○ 事業について

2018年度は、教育・研究環境の整備に係る重点項目について事業計画を立てて予算の編成を行い、2017年度第3回評議員会及び第6回理事会において承認を受けて実施し、計画どおりに完了することができました。主な事業は次のとおりです。

〔法人本部〕

- ・100周年サイト及び法人サイトの制作
- ・100周年ペーパーバッグ等作成

〔大学・大学短期大学部〕

- ・GAKUEN／UNIPAシステム用サーバリプレイス及び保守等の実施
- ・マロリーホール内シャンデリア他カバー取替工事
- ・1号館123教室改修工事
- ・4号館建物耐震補強改修工事
- ・4号館2階、4階トイレ改修工事
- ・6号館6301、6302看護学実習室のタッチパネル更新工事
- ・6号館高圧機器更新工事
- ・6号館6208マルチメディア語学教育演習室リプレイス工事

〔幼稚園〕

- ・園舎建物耐震補強改修工事
- ・幼稚園業務のICT化

○ 決算について（千円以下四捨五入の関係で合計など数値が計算上一致しない場合があります。）

本法人の会計年度は、寄附行為第39条に規定されており、2018年度決算における会計期間は、2018年4月1日から2019年3月31日までの1年間としています。また、当決算は、2017年9月の予算基本方針承認、2018年3月の当初予算承認、2018年9月の補正予算承認を経て執行されてまいりました結果を私立学校法及び学校法人会計基準に則り、資金収支計算書、事業活動収支計算書及び貸借対照表により表しています。

（1） 資金収支計算書

この計算書は、企業会計のキャッシュ・フロー計算書に相当するもので、①毎会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容を明らかにすること及び②当該会計年度における支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金）の収入及び支出のてん末を明らかにすることを目的とし、本法人の財政規模や資金の源泉、使途を表すものです。

当年度は、前年度繰越支払資金7億7,409万円に当年度資金収入41億3,726万円を加えた49億1,135万円が収入合計（財政規模）となりました。この収入合計から当年度資金支出41億2,183万円を差し引いた翌年度繰越支払資金は、7億8,952万円（期首比1,543万円増加）となりました。

（2） 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、企業会計における損益計算書に相当し、収支の均衡が取れているかを判断するとともに、純資産の増減を表す計算書です。学校法人は、営利を目的とはしませんが、永続的な運営を求められており、そのためには事業活動収支の均衡の確保も必要な条件となります。2015年度からは、改正学校法人会計基準の施行により「教育活動収支」、「教育活動外収支」、「特別収支」という三区分別経理が導入され、合わせて当年度の収支差額を表示した後に基本金組入額を差し引くことになっています。

教育活動収支は、学校の教育・研究活動に関する収支で、教育活動外収支は、学校の教育活動を側面から支える財務活動及び収益事業活動に関する収支です。この教育活動収支と教育活動外収支は共に経常的な収支ですので、両者を合計したものを「経常収支差額」として表示し、

経常的な事業活動が安定的であるかを判断する指標になります。加えてこの計算書には、退職給与引当金繰入額や減価償却額などの非資金も計上されます。特別収支は、学校法人にとって当該会計年度に臨時に発生した事業活動収支であり、収入では資産の売却益があったときの資産売却差額や施設設備に関する寄付金、補助金、現物寄付等が、支出では資産の売却損があったときの資産処分差額や災害損失等が計上され、その差異は「特別収支差額」として表示されます。

当年度の経常収支差額（教育活動収支及び教育活動外収支）は、2,742万円の支出超過。これに特別収支差額の3,696万円を加えた基本金組入前当年度収支差額は、954万円の収入超過となりました。これから基本金組入額8,919万円を差し引いた当年度収支差額は、7,965万円の支出超過となり、前年度繰越収支差額△5億6,324万円と基本金取崩額を加え、翌年度繰越収支差額は、6億4,121万円の支出超過となりました。

（３） 貸借対照表

資金収支計算書や事業活動収支計算書が一会計年度の収支状況を表しているのに対して、貸借対照表は、一会計年度末における学校法人の財政状態（財産の状態）を表示する計算書です。「資産の部」、「負債の部」、「純資産の部」で構成されており、純資産の部は、基本金及び繰越収支差額からなり、保有する資産の調達源泉（自己資金か他人資金か）が明示されています。

・ 資産の部

「固定資産」は、102億601万円（土地、建物、構築物などの有形固定資産52億5,986万円、用途が特定されている預金や有価証券等の特定資産49億1,301万円及びその他の固定資産3,314万円）、「流動資産」は、現金預金7億8,952万円に未収入金、貯蔵品、前払金などを加え9億8,724万円。以上、資産の部合計（総資産）は、111億9,325万円となりました。

・ 負債の部

退職給与引当金などの「固定負債」8億6,914万円及び未払金や前受金などの「流動負債」4億7,424万円の合計による総負債は、前年度末に比べ7,498万円減少し、13億4,338万円となりました。

・ 純資産の部

純資産（自己資金）は、「基本金」合計104億9,108万円と「繰越収支差額」△6億4,121万円の合計で98億4,987万円となりました。

・ 貸借対照表前年比

総資産は6,544万円減少し、総負債は7,498万円減少しました。純資産（自己資金）は、前年度末98億4,033万円、当年度末98億4,987万円で954万円増加しました。なお、当年度末の純資産構成比率は、88.0%（前年度87.4%）です。

2. 財務の概要（2018年度予算の主な執行状況）

当期の予算の執行状況について、その概況を報告いたします。なお、金額は千円未満を四捨五入して示しています。

(1) 資金収支計算

資金収支計算は、次の目的に基づいて作成しています。

- ①当該会計年度の諸活動に対応する全ての収入及び支出の内容を明らかにする。
- ②当該会計年度における支払資金（現金預金）の収入及び支出のてん末を明らかにする。

資金収支計算について、その主な内容をご報告いたします。

資金収支総括表

【科目の説明です。】

(収入の部)		(単位:千円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
学生生徒等からの授業料や入学金などです。科目等履修料、聴講料も含まれます。	2,147,352	2,184,939	△ 37,587	大学の経常費等補助金が増加しました。
国や地方公共団体からの助成金です。	33,768	31,706	2,062	
翌年度に入学予定の学生生徒等からの授業料や入学金などです。	44,884	42,094	2,790	地域が大学に求める要望をしっかりと受け止め連携を深める事業を進めており、その一環として認定看護者教育課程ファーストレベル等を開設し、看護師教育を継続的に実施しています。
長期、短期の貸付金の回収額。特定の目的のために積み立てた預金等を解約した場合の収入額などです。	463,478	554,153	△ 90,675	
収入として計上したが未収入となっているものや前受金収入として前年度までに既に受け入れている収入を差し引くことにより、資金の収入額を調整するためのものです。	0	0	0	退職者の増加により私学退職金財団交付金収入が増えています。
	18,708	18,921	△ 213	
	23,865	26,769	△ 2,904	
	102,239	171,419	△ 69,180	
	0	0	0	
	454,111	363,540	90,571	
	1,191,773	1,349,463	△ 157,690	
	△ 495,303	△ 605,741	110,438	退職者の増加に伴う「私学退職金団体交付金収入」の増加が「資金収入調整勘定」の「期末未収入金」の増加に大きく影響しています。
	3,984,875	4,137,263	△ 152,388	
	774,089	774,089		
収入の部合計	4,758,964	4,911,352	△ 152,388	
(支出の部)		(単位:千円)		
科 目	予 算	決 算	差 異	
土地、建物、構築物等を取得するための支出です。	2,113,841	2,193,444	△ 79,603	退職者の増加により退職金支出が増え予算を上まわりました。
教育研究用の機器備品、管理用の機器備品、図書などを取得するための支出です。	573,891	534,772	39,119	
より良い教育研究サービスを提供するために、資金を積み立てるための支出です。	178,260	156,593	21,667	
支出として計上したが未払いとなっているものや、前払金として前年度までに支払っている経費を差し引くことにより、資金の支出額を調整するためのものです。	0	0	0	
	0	0	0	
	119,640	125,637	△ 5,997	・昨年7月の「九州北部豪雨」で発生した、大学8号館南側及び中門東側の斜面崩落、中高西側斜面の崩落の応急復旧工事を行いました。また、被害を与えた住民への賠償等、緊急的な支出が増加しました。
	65,498	55,311	10,187	・学生、園児等の安全確保ため、大学4号館及び幼稚園園舎建物の耐震補強改修工事を行いました。
	53,506	205,024	△ 151,518	・大学6号館6208マルチメディア語学教育演習室のリプレイス工事等、教育・研究の充実に取り組みました。
	893,262	915,247	△ 21,985	
	△ 49,530	△ 64,198	14,668	
	3,948,368	4,121,830	△ 173,462	
	810,596	789,522	21,074	
支出の部合計	4,758,964	4,911,352	△ 152,388	
当年度資金収支差額	36,507	15,433	21,074	

* 上記の金額は千円未満を四捨五入しているため、合計など数値が計算上一致しない場合があります。
 なお、以下の表についても同様です。

学校会計について

学校法人は、教育研究活動を目的とし、その経費の多くは学生生徒等納付金、補助金、寄付金等により賄われているきわめて公共性の高い法人で、営利を目的とする企業とは異なります。

公共性が高い学校法人が教育研究活動を継続して行い永続的に存続していくためには、収支の均衡状況と財政状態を正しく捉え健全な経営を行わなければなりません。そのため学校法人会計は、文部科学省令により定められた「学校法人会計基準」に基づき経理処理が行われ、計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表及び附属する内訳表、明細表）を作成しなければなりません。

一方、企業会計では、損益計算書と貸借対照表そして上場企業においてはキャッシュフロー計算書が作成されます。企業会計では、収益と費用を正しく捉えて損益を計算し、併せて企業の財政状態（資産、負債及び資本）を知ることによって、より収益力を高め、財政的安全性を図ることを目的としています。

(2) 事業活動収支

事業活動収支計算は、次の目的に基づいて作成しています。

①当該会計年度の活動に対応する事業活動収入及び活動支出の内容を明らかにする。

②当該会計年度の基本金組入後の均衡の状態を明らかにする。

・事業活動収入とは、当該会計年度の学校法人の負債とならない収入として計算するものとする。

・事業活動支出とは、当該年度において消費する資産の取得価格及び当該会計年度における用役の対価に基づいて計算するものとする。

事業活動収支計算について、その主な内容をご報告します。

事業活動収支総括表

(単位:千円)

科 目		予 算	決 算	増 減
事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,147,352	2,184,939	△ 37,587
	手数料	33,768	31,706	2,062
	寄付金	44,884	42,094	2,790
	経常費等補助金	423,788	507,741	△ 83,953
	付随事業収入	18,708	18,921	△ 213
	雑収入	102,332	213,592	△ 111,260
	教育活動収入計	2,770,832	2,998,992	△ 228,160
事業活動支出の部	人件費	2,139,716	2,205,211	△ 65,495
	教育研究経費	729,585	685,515	44,070
	(うち、減価償却額)	(155,694)	(151,325)	(4,369)
	管理経費	183,036	161,431	21,605
	(うち、減価償却額)	(4,776)	(4,776)	(0)
	徴収不能額等	0	1,024	△ 1,024
	教育活動支出計	3,052,337	3,053,182	△ 845
教育活動収支差額		△ 281,505	△ 54,190	△ 227,315
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	23,865	26,769	△ 2,904
	その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計	23,865	26,769	△ 2,904
教育活動外支出の部	借入金等利息	0	0	0
	その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0
	教育活動外収支差額	23,865	26,769	△ 2,904
経常収支差額		△ 257,640	△ 27,421	△ 230,219
特別収支の部	資産売却差額	0	0	0
	その他の特別収入	39,690	48,207	△ 8,517
	特別活動外収入計	39,690	48,207	△ 8,517
	資産処分差額	0	9,065	△ 9,065
	その他の特別支出	0	2,178	△ 2,178
	特別活動外支出計	0	11,243	△ 11,243
	特別収支差額	39,690	36,964	2,726
基本金組入前当年度収支差額		△ 217,950	9,544	△ 227,494
基本金組入額合計		△ 133,887	△ 89,194	△ 44,693
当年度収支差額		△ 351,837	△ 79,650	△ 272,187
前年度繰越収支差額		△ 563,243	△ 563,243	0
基本金取崩額		55	1,682	△ 1,627
翌年度繰越収支差額		△ 915,025	△ 641,211	△ 273,814

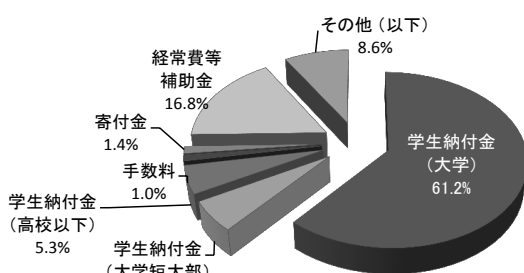
(参考)

事業活動収入計	2,834,387	3,073,968	△ 239,581
事業活動支出計	3,052,337	3,064,425	△ 12,088

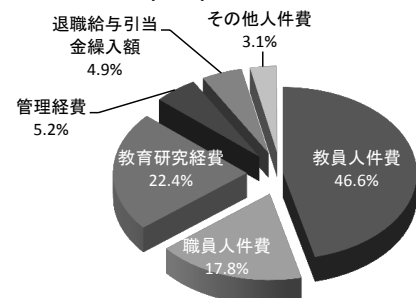
※経常収入＝教育活動収入＋教育活動外収入＝3,025,762千円

※経常支出＝教育活動支出＋教育活動外支出＝3,053,182千円

経常収入(3,025,762千円)の構成比率



経常支出(3,053,182千円)の構成比率



(3)貸借対照表

①貸借対照表とは、年度末における学校法人の財政状態(財産の状態)を表示する計算書であり、資産・負債・純資産及び消費収支差額の項目があります。

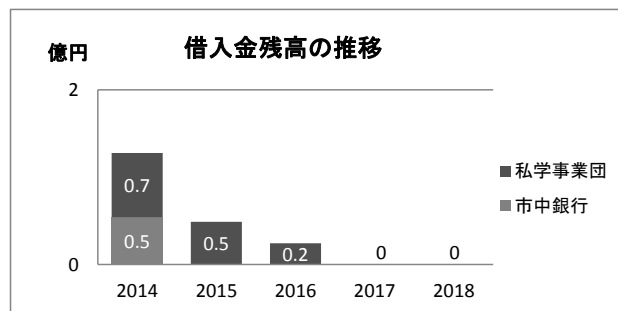
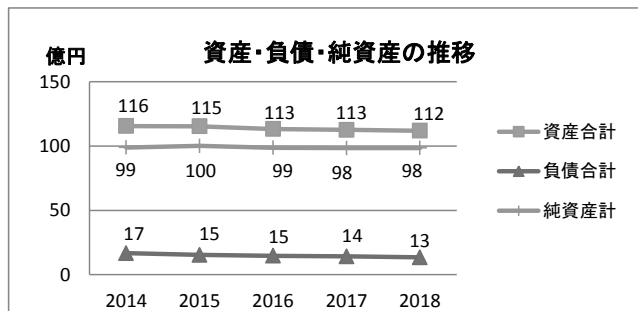
- ・資産とは、教育研究活動に使用される学校法人の財産です。・負債とは、将来返済しなければならない債務です。
- ・基本金及び繰越収支差額は、返済の必要のない学校法人の純資産です。

貸借対照表について、前年度末からの増減の主な理由を報告します。

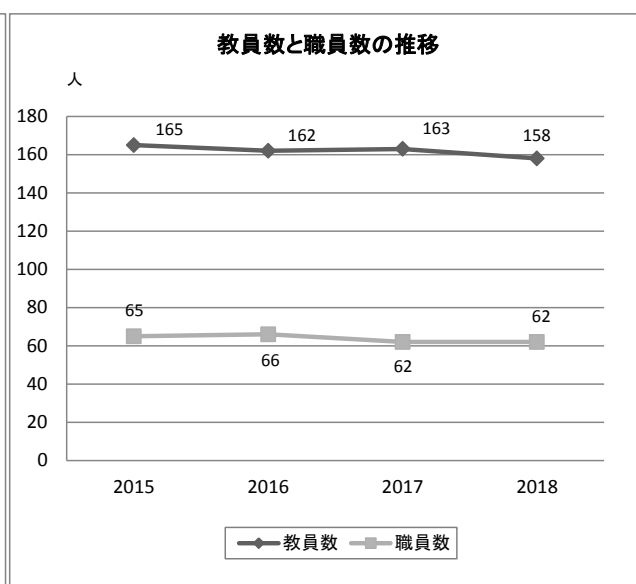
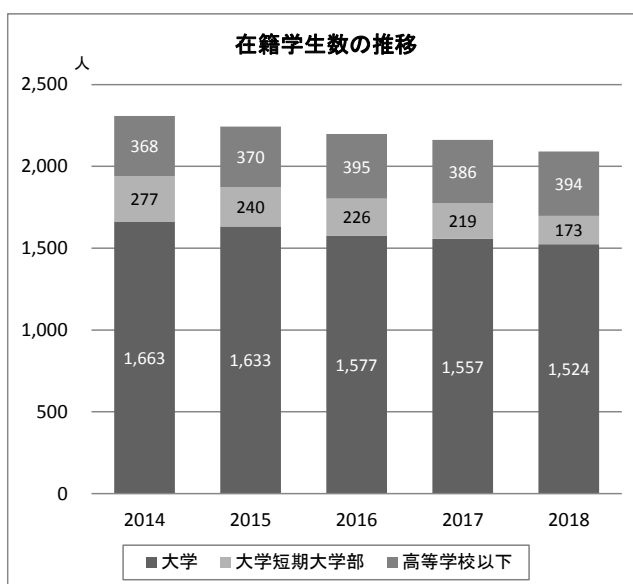
【科目の説明です。】

貸借対照表

資産の部		(単位:千円)		
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定資産	10,206,007	10,266,592	△ 60,585	
有形固定資産	5,244,581	5,244,581	15,281	
土地	708,623	708,623	0	
建物	3,119,257	3,112,060	7,197	大学4号館及び幼稚園園舎建物の耐震補強改修工事等を行いました。
構築物	171,736	178,699	△ 6,963	
教育研究用機器備品	137,825	133,445	4,380	
管理用機器備品	766	1,292	△ 526	
図書	1,121,654	1,110,461	11,193	
特定資産	4,913,009	4,988,490	△ 75,481	
第2号基本金引当特定資産	57,398	56,398	1,000	
第3号基本金引当特定資産	160,338	156,927	3,411	
諸引当特定資産	4,695,273	4,775,165	△ 79,892	大学4号館耐震補強改修工事等による引当資産の取崩しを行いました。
その他の固定資産	33,135	33,520	△ 385	
電話加入権	4,450	4,450	0	
長期貸付金	8,494	8,879	△ 385	
出資金	20,173	20,173	0	
敷金・保証金	18	18	0	
流動資産	987,245	992,100	△ 4,855	
現金預金	789,522	774,090	15,432	
未収入金	193,333	215,036	△ 21,703	年度末退職者への退職金財団及び福岡県私学教育振興会からの資金交付金、国・県・市からの補助金・助成金等を未収入金として計上しています。
貯蔵品	895	375	520	
前払金	221	276	△ 55	
立替金	3,174	2,202	972	
仮払金	100	121	△ 21	
合 計	11,193,252	11,258,692	△ 65,440	
負債の部、純資産の部				
科 目	本年度末	前年度末	増 減	
固定負債	869,143	880,872	△ 11,729	
長期借入金	0	0	0	
長期未払金	22,982	4,279	18,703	
退職給与引当金	846,161	876,593	△ 30,432	
流動負債	474,237	537,491	△ 63,254	
短期借入金	0	0	0	現在、借入金はありません。
未払金	45,219	51,677	△ 6,458	
前受金	363,540	411,384	△ 47,844	
預り金	48,424	51,995	△ 3,571	
修学旅行費預り金	17,054	22,435	△ 5,381	負債が7,498万円減少しました。
計	1,343,380	1,418,363	△ 74,983	
純資産				
基本金	10,491,083	10,403,571	87,512	
繰越収支差額	△ 641,211	△ 563,243	△ 77,968	純資産が954万円増加しました。
計	9,849,872	9,840,328	9,544	
合 計	11,193,252	11,258,692	△ 65,440	
減価償却額の累計額		4,810,622	4,731,517	79,105
基本金未組入額		32,587	21,302	11,285



(4) 学生数・財務比率などの推移



計算書類について

資金収支計算書

当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに当該会計年度における支払資金の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。

事業活動収支計算書

当該会計年度の事業活動収支の内容を明確にし、事業活動収支の均衡を表すものです。

計算書の構造は、教育・研究活動(教育活動)と財務活動で生じる利息等(教育活動外収支)、資産売却等の臨時的収支(特別収支)に区分され、各区分の収支差額から経営状態の健全性を把握することができます。

貸借対照表

当該会計年度末における資産・負債・純資産(基本金及び収支差額)の状況を把握し、財政状態を表すものです。